

羊蹄山は 1985 年
以来である。百名山
の 75 個目くらいの
時であった。青函連
絡船が翌年で廃止と
いうことであったの
で、それで行った。
函館出身の会社の後
輩と函館で飲んで、
夜行列車でニセコの
駅で降りたら大雨だ
った。ベンチで寝て
いたら雨が上がった
ので、タクシーを飛



雲の下の羊蹄山

ばして登ってきた。雨上がりの羊蹄山は素晴らしい景色で、登っていたのは私一人。当時の北海道の山では珍しいことではなかった。雄阿寒岳や斜里岳もそうだった。当時は後方羊蹄山（シリベシ山）という呼び方のほうが一般的であったと思う。蝦夷富士ともいう。平地の真ん中にポツンと盛り上がった単独峰であるので、頂上から見下ろすと、天下のものはみな俺の下にあるという感じで実に気持ちがよかった。

ニセコアンヌプリ

今回の主目的は、
300 名山のニセコ
アンヌプリであっ
た。登って降りて
きても 3 時間で済
んでしまうのであ
るからまあ楽勝で
ある。ガイドが附
くのは羊蹄山だけ
で、ツアーリーダー
の、“頑張りばあ
さま” 戸村さんが



ニセコアンヌプリ

ガイドもやる。

“参加者は 13 人（男 8 人、女 5 人）であるから、ツアーリーダーも一人なのよ”と、ボヤいていた。日曜日であったので、結構家族ずれでにぎわっていた。羽田を 7 時台の飛行機



後ろが羊蹄山

で発ってもまだ余裕があった。ただし 4 時半起きと朝が早かったので、やたら眠かった。

羊蹄山

この日のうちに登って降りて、ふろにも入って、その日のうちに羽田であるから超急がした。朝 4 時半のスタートである。前夜、同室の 4 人のうちのひとりのイビキがすさまじく、目が覚めたのかどうかわからないうちのスタートだ。標高差 1,550m の登り降りは、前回には何でもなかったことであったが、今の俺にはきつい。登りは何とかしたが、降りには足に力が入らなくて 2 回ほどスッテ



ンと転んでしま
った。

1合目・・・8
合目などとしっ
かりした道標が
あり、道もしっ
かりしているの
で歩きやすい。

登っているう
ちに雲が上がっ
てきてしまって
前回の見渡す限
り田園風景とい
った気持ちよさ



はなかった。周りの人がカワイソ。100名山100個目という人が3人もいた。中には6年
目で達成という人もいた。まあ、こんな風にツアーを渡り歩けばそれほど難しいことでは
ないのかまもしれない。